

平成 27 年 4 月発行

木童 東京ショールーム

open 月～金 10:00-18:00 土 11:00-17:00
close 日・祝(事前予約いただければ日祝の見学も可能です)

東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティ 1F
TEL:03-5358-5125 FAX:03-5358-5126
URL:http://www.kodoh.co.jp

木童 神戸事務所 兵庫県神戸市北区大沢町篠 437
TEL:078-954-0072 FAX:078-954-0257
E-mail:muku@kodoh.co.jp

★杉の列車



“ありがとう、ラ
ストラン”と書か
れた乗車証明書

トワイライトエクスプレスの運行終了や北陸新幹線の営業開始と、この3月は列車話題で盛り上がっていました。私も3月10日に富山県への出張があり、これまた間もなく運行終了となる特急「はくたか」に乗車してきました。これでなくなってしまうんだなと思うと感慨深いものがありました。雪景色の中、越後湯沢駅で乗り換え、トンネルを抜け日本海側の町へ。ちなみに新幹線の途中駅になる糸魚川にある協力工場の社長は「13分しか変わらないし高くなる」とあまり北陸新幹線を歓迎していない模様です(苦笑)。でも、木童東京事務所としては大歓迎です、なぜなら木童の売る北前ひばの産地・石川県の能登半島までの距離がぐっと近くなるからです。金曜日に新幹線で金沢、バスで輪島まで移動し、翌日製材所を見学して七尾鉄道の特別列車で帰る、なんて企画も浮かんでいきます。七尾線特別列車は漆や金箔を使用した“これぞ石川県の列車”という和テイストに仕上がっているようで個人的にとても楽しみにしています。今年10月より土日みの運行でスタートの予定です。

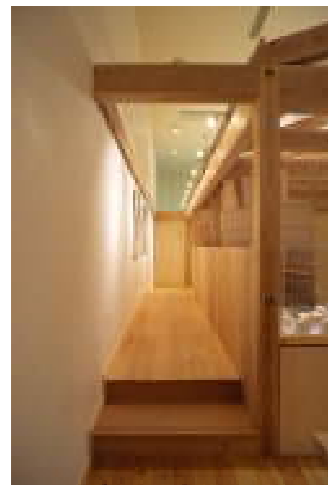


数年前も宮崎県出張の折に「海彦山彦」という宮崎県の杉「オビ杉」を使用した土日限定の特別列車に乗車したことがあります。杉の内装が心地よかったです。

別段、乗り鉄とか撮り鉄とかの趣味はありませんが、水戸岡さんデザインのJR九州の特急列車は木を取り入れたものが多くあり、九州に出向くと列車に乗って移動したくなります。水戸岡氏の列車デザインには、観光列車だけではなく普通の列車にも木を使っているものが多くあり、国産木材を扱っている木童としてもシンパシーを感じざるを得ません。最近、水戸岡氏デザインの列車が各地で採用されていますが、まだまだ観光列車が多く、九州のように通常運行の列車にも使われていません。JR東海や東日本も長時間乗車する新幹線にはもっとインダストリーデザインに木を取り入れることを考えてもいいんじゃないでしょうか。ファンがもっと増えるかもしれません。

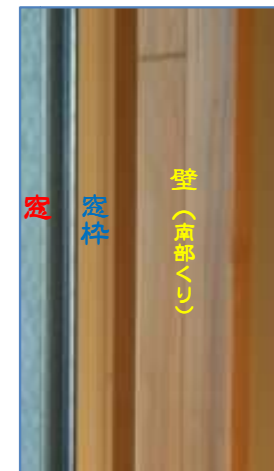
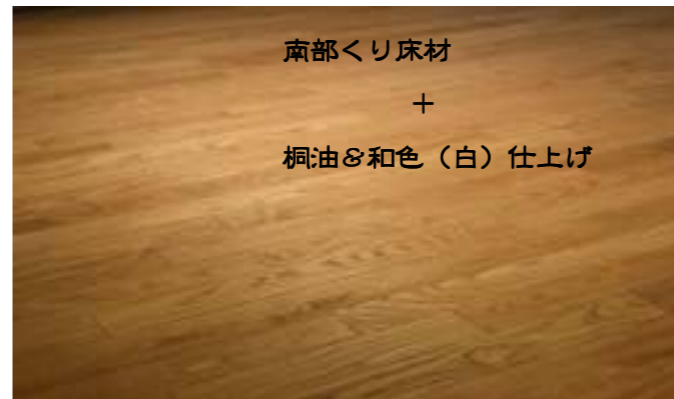
★東京ショールームの床

木童東京ショールームは、靴を脱いで上がって貰う部分の床材に、厚さの違う樹種を張っているのをご存知でしょうか？ 杉、ヒバ、赤松、から松等・・・足裏に当たる木の違いによる感覚は「温かみ」「硬さや柔らかさ」等、素足で家に上がる習慣のある日本ならではの感じ取ることが出来るものかもしれません。特に床に寝っ転がりたいたい人には、一度ショールームで体感してもらいたいものです。最近、志田設計事務所さんが一般の方を募集して木童ショールームツアーを開催されています。床材の違いもさることながら、10年以上経過した床材の状態とその見た目も合わせて知ってもらいたいことも出来るあまりないショールームとして活用して貰っています。無垢の床材を検討されている方は一度体感してください。おまけに木童スタッフの濃い説明がもれなく付いてきます。



★家づくり現場レポート① 設計：遊空間設計室 施工：石和建设 ～南部くり・桐油・和色～

ありがたいことに、設計：遊空間設計室×施工：石和建设×木童の床材という物件が3件続きました。それぞれ樹種が違いますが、すべての物件で床暖房に木童の無垢材(道産かば・南波から松・南部くり)が使用されています。その中で今回ご紹介するのは南部くりを使った現場です。部屋に段差があり、小上がりになっている所の階段板やケコミを床材で作っていたり、また壁材として使っている場所もあり、床材を無駄なく使っていました。



写真では光の当たり方が違うので判りにくいのですが、くりは広葉樹の中でも比較的色ムラが少なく、色味が整い易い樹種。更に床としては堅過ぎず柔らか過ぎず、床暖房にも使えるので、木童の床材の中でも人気の樹種のひとつです。また、今回は元の素材の色をより長く保ちたいという要望から、木童の桐油と木童の和色(白)を4:1で調合して塗装しています。自然な仕上がりで、白が混ざっていることはほとんど感じませんが、経年変化でその効果が現れてくることと見えます。

★家づくり現場レポート② 京丹波の家 設計：アトリエポンド

京都郊外に、オール宮崎材の家が完成しました。いつもは適材適所に、全国各地の材料を使っていたのですが、今回は構造材・床材・壁材・デッキ材、すべてを同じ産地のものによって統一。全体の印象が整うということと、大型トラックで一度に運ぶことで、運賃デメリットを抑えることができました。この物件は、平成26年度の宮崎スギの家づくり事業というのに採択され、数十万の補助金を受けることができたのも大きなメリットでした。



▲シンプルな外観

▲広々としたデッキ

▲薪ストーブが家じゅうを温める

▲桜を眺めるための窓

のどかな田園地帯に建つ住まい。近くにはお宮さんがありその周りの桜並木が素晴らしく、この景色・ロケーションを最大限に生かして窓が配置されています。シンプルな形ながらよく考えられたデザインの住宅でした。

KODOH NEWS

企画展のご案内 [木童オペラシティショールーム内]

- 第186回企画展 3/23(月)～4/18(土) NPO法人木の家だいきの会主催 アトリエヌック/シニアの木の家のリフォーム
- 第187回企画展 4/20(月)～25(土) NPO法人木の家だいきの会主催 アトリエ海/材選を愉しみ、職人が技を競う茶室のある家
- 第188回企画展 5/25(月)～30(土) NPO法人木の家だいきの会主催 もりちかぐみ/木の家だいきの会設計会員 森本周子

※木童通信をHPよりダウンロード出来ます。バックナンバーをご希望の方はこちらをご利用下さい。